

抱擁の標本

望月苑巳

さくらははなびらにじゃれつく猫
猫の暗闇にぼく
ぼくの骨格に似た無邪鬼がいる
とうの昔に夜店で失ったものがそこにある
柔らかな毛並みを抱くと
温かいのちがはらりと
夢の外へ逃げてゆく
昨日買った手帳に
その夢を貼りつける
抱擁を貼りつける
喜びの源はぼくの内側にあったと
その時、気づく
いのちの回数券が減ってゆくように
はらり
はらり
さくらは散る時、宙で背を向けるだけなのに
テロメアは
背を向けないまま
弟の命日にじゃれついたのでか
これみよがしに
黙々と目を伏せている散華
一枚落ちるたびに生を願ひ
死を思う
一枚裏返るたびに
一歳、歳をとり
一歳若返る気がする

その弥生は
人を狂わせるだけに存在するようだ
夢の外の闇だまりにはまりこんで
またさくらと、ダンスに興じている
猫が
腕の中でチコンと標本になっているので
ぼくはつるりと泣きだしてしまふ

*テロメア＝命の回数券とよばれる。染色体の先端にあり
細胞分裂を繰り返すたびにこの部分は短くなって、死んでゆく。